

人の波動測定と波動水
自分の“うた”を歌うために

アクアタック研究室

片岡 章

どんな人も、歌いたい自分の“うた”を持って生まれてくるのではないのでしょうか。母親のお腹のなかで、あのような10ヶ月の大変化を経て生まれてくるのです。気まぐれでこの世のステージに立っているとは、とても思えません。

その“うた”は、人それぞれです —— 絵を描く、温かい家庭をつくる、事業を起こして拡大する …。

ただ、澄んだ声でそれを歌うためには、自分という楽器が手入れされ調律されていなくてはなりません。そうでなければ、歌う本人が不愉快であるばかりか、聞く人の耳をも傷めます。

また、調律されないままに日々を過ごしていると、歌いたい“うた”があったことさえ忘れてしまいます。

しかし、うまく歌えないでいる人も、なにを歌いたかったのかわからなくなっている人も、決して“うた”を失ったわけではありません。その底では、持って生まれた“うた”が、いまでもひそかに鳴り続け、出番を待っています。つまり、《底力》はあるのです。それも、いくつになっても！

あとは、ほどよい調律を施してあげることです。そうすれば、“うた”は気持ちよく鳴り響きますし、その先には嬉しい連鎖も生まれていきます。



自分の持って生まれたトーン=波動を整え、心ゆくまで“うた”を歌う —— 波動測定と波動水は、そのための手立てのひとつです。